

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

令和2年10月30日

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

- I 国際園芸博覧会(A1)の開催意義について
- II 事業展開等について
- III 国際園芸博覧会(A1)を開催する前提となる基盤整備及び現実性について

I 国際園芸博覧会(A1)の開催意義について

- 横浜市が示した基本構想案による国際園芸博覧会は、①SDGsの実現による日本モデルの提示、②Society5.0の展開、③グリーンインフラの実装、④花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、⑤観光立国や地方創生の推進、⑥通信施設跡地の返還とまちづくり等の政策の実践等の観点から国が関与して開催する意義があるとされた。
- 横浜市が示す基本構想案、特に日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会を意図した「幸せを創る明日の風景」というテーマは、国が関与して開催する国際園芸博覧会として適当であると認められ、テーマの具体化を図るべきとされた。
- 国際園芸博覧会の対象領域として国が推進すべき政策分野は、さらに加えるべき内容もあると考えられることから、引き続き検討が必要とされた。

基本構想案及びテーマについて



テーマの意図：日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会

横浜国際園芸博覧会の位置図と現況

位置図



現況



大阪・関西万博（2025）
 テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
 ・国連が掲げるSDGsが達成された社会
 ・国家戦略であるSociety5.0の実現



横浜国際園芸博覧会 2027

2050年も視野に入れたバックキャストによる博覧会の検討

その先の社会へ (2050)

地球規模の環境変化

地球温暖化／災害への脆弱性／途上国における人口増加／許容量を超えた自然資源利用／生態系サービスの減少／生物多様性の喪失

国内の環境・社会情勢の変化

人口減少の進展／急速な高齢化・長寿命化／自然災害の激甚化・頻発化／インフラの老朽化／中山間地域の農地の荒廃等

技術革新と経済のグローバル化

IoT、AI等の新技術の進展／遺伝子レベルでの技術進展／経済のグローバル化／地球規模での人的交流の活発化

Society5.0の推進

AI、IoTなどの先端技術を取り入れ、都市・地域の社会課題解決等

- ・第5期科学技術基本計画(2016)
- ・未来投資戦略2018(2018)

グリーンインフラの実装

自然環境の有する多様な機能を活用した持続可能な都市づくり等

- ・グリーンインフラ推進戦略(2019)
- ・ガーデンツーリズム登録制度(2019)

花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化

持続可能な農業・食品産業に関する研究開発推進、次世代国産花き産業の確立等

- ・花きの振興に関する法律(2014)
- 国際園芸博覧会等の開催の推進を位置付け

観光立国や地方創生の推進

国民経済の発展、国際相互理解、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズム等

- ・明日の日本を支える観光ビジョン(2016)
- ・観光立国推進基本計画(2017)

上瀬谷通信施設返還(2015)

政策実現とその主流化の場として、国際園芸博覧会を国が関与して開催する意義

アジア・モンスーン地域で開催される園芸博覧会として、日本の里山に代表される「環境とともに生きる」知恵を世界に提示

Eco-DRR等による災害の克服、環境に対する複合的な取り組み等、SDGsを達成するモデルを構築

科学技術の進化と人間性の調和、自然資本財の持続性確保、新たな産業・政策の創出と展開

AIPHが掲げる、人々と企業が繁栄する活気ある都市の創造における植物の役割を促進する「グリーン・シティ・イニシアティブ」の推進

SDGsの実現による日本モデルの提示(2030)

2030年を年限とするSDGsの目指す社会



「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

未来に向けた博覧会レガシーの継承

園芸博覧会の意義・成果を、区域全体でレガシーとして継承し、国内外に発信

図 日本で国際園芸博覧会を開催する意義 (国際園芸博覧会検討会報告書概要版より)

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

《個別の意見》 以下、全3回の検討会でいただいた意見・提案等の概要を示す。委員意見の区分は事務局が行った。

i) 世界的な課題、激変する社会を踏まえた開催の重要性

- 2027年の開催は、2050年を展望しながら、社会変容にどのように対応するのかを示す意味がある。環境変化に対して、我々自身のライフスタイルや社会をどう変えていくのかにチャレンジする園芸博とすべき。
- 多様な価値観の融合、人と人の出会いの創出、効率化や均質化とは異なる価値観を示すべき。
- 都市と農が融合しうまく動的に制御されている21世紀のアジアないし日本型の田園都市をどのように形成するか、そのバックキャストとしてこの園芸博で何をするかを考えるべき。

ii) 園芸博覧会として開催することの意義

- 花や緑との関わりを通じて、新しい技術革新が進む社会において人間の幸せの姿はどうあるべきかを示すべき。
- 花きの需要が、地域や家庭レベル、個人まで拡大・浸透するような波及効果を発揮させるべき。
- 園芸の振興が園芸博の開催意義の中心である、という前提認識は忘れずに検討すべき。
- 園芸博にはSociety5.0と全く逆の概念があっても良い。決してAIでは実現できない部分が緑や園芸にはあるのではないか。
- 大阪花の万博からの30年もしっかり振り返った上で横浜に活かすべき。

iii) 横浜市、上瀬谷において開催することの我が国にとっての意義

- 将来の先進的な都市農業や、都市の中での農業とコミュニティの新しいモデルを横浜で示すべき。
- 一般的に横浜は港のイメージが強いが、里山地域も忘れてはならない宝物であると訴えかける博覧会にすべき。

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

II 事業展開等について

- 具体的なコンテンツや会場計画のイメージが不明であり、上瀬谷の特性を活かしつつ、地球規模の課題への対応、園芸文化の発信、農の発展等の視点に留意し、引き続き具体化の検討が求められるというご指摘を頂いた。
- また、準備段階を活用した戦略的な情報発信、自立的な市民参加、コミュニティ醸成等と併せて、技術革新等の社会情勢への柔軟な対応も必要であるとのご意見を頂いた。

《個別の意見》 以下、全3回の検討会でいただいた意見・提案等の概要を示す。委員意見の区分は事務局が行った。

i) 国際園芸博覧会のコンテンツについて

- 現在の計画段階では、様々なキーワードがちりばめられているが、その背景にあるべきコンセプトや思想が見えない。更なる深掘りをするべき。
- 生物多様性や地球規模の環境保全とはどういうものか、具体的に体験できるものを見せるべき。
- 日本の原風景である里山などで伝統的に存在した、持続可能性、Eco-DRR等につながる知恵の発信を見せるべき。
- スマート農業もあるが、中山間地域等の現状も踏まえた「農の発展」を視野に入れるべき。
- 大阪・関西万博の流れの継承とともに、対比という観点も重要視すべき。
- 環境に負荷をかけずに文化を営むという時に、スポーツは一つ重要な役割を果たせるのではないか。
- 新しい技術、イノベーションを含んだ建築物による新たな日本文化を発信すべき。
- コンテスト等による園芸の振興という、園芸博の本分は忘れずに検討すべき。

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

ii) 国際園芸博覧会の会場計画について

- 博覧会のフィジカルなイメージが湧いてこず、引き続き検討すべき。
- ゾーニングは20世紀の知恵であって、21世紀としてはゾーニングを超える空間制御を考える必要がある。会場だけでなく、周辺の農地等、周囲との連携、一体感を重要視すべき。
- 新しいモビリティを先駆的に見せること、公共空間の形成に積極的に民間が関わることを検討すべき。
- エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムの観点を取り入れてほしい。また、ユニバーサルデザインも重要視すべき。
- 来た人がゆっくり歩いて快適さを体感できるよう、里山文化を中心に絞るなど、計画内容を引き算で考えるべき。
- テクノロジーの進展が著しく運営や計画に柔軟性をもたせるべき。

iii) 機運の醸成について

- プロセスに人々を巻き込むことが広報やPRになる。国内外に向けての事前のコミュニケーションを重視すべき。
- 海外から出展したいと思ってもらえるよう、海外の園芸文化や技術を情報発信できるような仕組み等を検討すべき。
- 育てる社会資本であるグリーンインフラは、国際園芸博覧会までのプレイベントを通じて、市民意識を高揚させる機会となりうる。

国際園芸博覧会検討会でのとりまとめ結果の概要

Ⅲ 国際園芸博覧会(A1)を開催する前提となる基盤整備及び現実性について

- 博覧会会場区域の整備及び輸送計画について、地域環境への影響や周辺道路の交通容量等を考慮し、手法や手段の最適化を図るとともに、具体的なスケジュール策定を早期に検討すべきとのご指摘を頂いた。
- また、博覧会後の地域内外のまちづくりにおいても、そのレガシーを継承し、国内外に発信していくことが求められるとのご意見を頂いた。

《個別の意見》 以下、全3回の検討会でいただいた意見・提案等の概要を示す。委員意見の区分は事務局が行った。

i) 博覧会区域の基盤整備

- 計画では会場用地は約100ヘクタール、1日の来場者数15.6万人想定はかなり高密度。入場者数はどのくらいが適当か、また、自然環境をどのように残して活用するのか等、フィジカルな考え方を投影していくべき。
- 具体的なスケジュール策定を早期に検討してほしい。

ii) 輸送計画

- 来場者の輸送について、平準化も含めてしっかり考え、環境に配慮した輸送計画とすべき。
- 具体的なスケジュール策定を早期に検討してほしい。

iii) 将来のまちづくりの基盤となるような博覧会のレガシーの継承

- 人口減少、超高齢社会を背景に、都市と農が融合した都市近郊部のまちづくりの将来設計について、提案すべき。
- ひとつの先端的な生き方につながるまちづくりのモデルを提案すべき。